

### ③ 副島種臣ゆかりの地

～佐賀の七賢人、元勲 副島種臣が青年期を過ごしたゆかりの地～

副島種臣(1828年～1905年)。

副島種臣は、文政11年(1828)9月9日佐賀藩士枝吉忠左衛門種彰(号南濠)の二男として佐賀市南堀端に生まれ、国文学者枝吉神陽の実弟で、幼名を枝吉二郎といった。

種臣31歳のとき、親類の副島和忠の長女律子の入婿となる。副島家は代々西与賀町今津江湖端に住み、種臣も青年時代の一時期当地で過ごしたと伝えられ、その跡は乾燥工場等が建てられている。副島種臣は、明治維新の元勲として明治政府で参議・外務卿・内務大臣を歴任し、その外交手腕は、外国高官からも高く評価された。また、書家としても優れ蒼海と号した。